

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4150780015		
法人名	社会医療法人 祐愛会		
事業所名	グループホーム ゆうあい		
所在地	佐賀県鹿島市大字高津原2962-1		
自己評価作成日	平成30年2月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年3月1日	外部評価確定日	平成30年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が自由に、その人らしい生活が続けられるよう、一人一人の笑顔を大切に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

ゆうあいビレッジと名付けた敷地内には複数の施設や部署があり、法人内で完結できる要素が揃っている。職員には異動があり、様々な職場の経験を積む事でスキルを磨き成長することへの期待も窺える。また理念に掲げた「地元の方との交流を大切にします」が十分ではないと真摯に向き合い、次年度の目標としている。回覧板を利用した情報の発信も検討され、専門知識を活かし、法人の設備等を活かした貢献の用意もある。また年に一度行う大規模訓練では消防署員や地元消防団員にとっても実践による経験ができ、知識を得る機会にもなっていると評価されている。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングなどに施設リネンを貼り貼り、日常的に見えるようにし、毎朝、朝礼でケア理念を唱和している。地域の方との交流の面で理想に近づけていない。	リビングなどに施設リネンを貼り貼り、日常的に見えるようにし、毎朝、朝礼でケア理念を唱和している。地域の方との交流の面で理想に近づけていない。	事業所が位置するのは広い敷地内に複数の施設が建つエリアで「ゆうあいビレッジ理念」として法人が掲げたものもある。事業所ではそれとは別の独自の理念を創り上げている。現管理者が着任した際に、職員と共に介護で大切にしている言葉や想いを出し合い4つの項目にまとめたものである。管理者は、入居時よりも穏かになった利用者の表情や、笑顔でケアにあたる職員の姿勢にそれが活かされていると感じている。また職員会議等で方向性を示す時には理念と照らし合わせ、立ち戻る原点であると説いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に1回地域の方と一緒に清掃活動を行っている。運営推進会議に地域の区長や民生員に参加してもらっている。近隣地域の小学校と交流や地域の消防団との防災訓練など行っているが、日常的な交流ができていない。	年に1回地域の方と一緒に清掃活動を行っている。運営推進会議に地域の区長や民生員に参加してもらっている。近隣地域の小学校と交流や地域の消防団との防災訓練など行っているが、日常的な交流ができていない。	自治会に加入しており、地域の清掃活動にはビレッジ全体として協力している。近年は行事に近隣住民を招く機会もないが、専門知識を有するエリアとして身近な相談所でもありたいと考えている。年に一度、ビレッジが行う大規模訓練では消防署や地元消防団にとっても対応の実体験ができ、見学する住民にとっては緊急時を再認識する機会でもある。また地域の情報は運営推進会議の際に区長や他メンバーからももたらされ、交流が図れるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地区の代表者については理解を求めており、認知症カフェを開催するなどして、少しずつ地域の方に向けた活動ができています。	運営推進会議で地区の代表者については理解を求めており、認知症カフェを開催するなどして、少しずつ地域の方に向けた活動ができています。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの行事や取り組みを報告し、頂いた意見を検討し実践している。	ホームでの行事や取り組みを報告し、頂いた意見を検討し実践している。	ビレッジ内事業所合同での運営推進会議である。約70～80分を要し有意義な意見交換の場となっている。最近の例では、火災時に川からの取水や住民との連携が挙がっており、メンバーに地域役職者がいることで現状を知ることにも出来ている。また専門知識を活かした講座や回覧板を利用した発信なども案件として引き継がれており、それらをサービス向上に活かせるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議開催のお知らせを直接市の職員に手渡しに行き、会議に市の担当者に参加してもらい意見を頂いている。	運営推進会議開催のお知らせを直接市の職員に手渡しに行き、会議に市の担当者に参加してもらい意見を頂いている。	法人の事業所や部署など要素が揃っていることもあり、内部で完結出来る事も多い。行政側とは運営推進会議を通じ顔見知りでもあることから、問い合わせ等があれば直接出向くようにしている。地域の同業種交流会を開くにあたり会場を無償で提供してくれるなど、協働関係も築けている。また介護相談員を半年に一度受け入れており、各ユニット30分程度の滞在をし気付きがあれば伝えてもらっている。利用者との橋渡し役として今後も期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会へ出席し、定期的に勉強会を行い、身体拘束廃止委員を中心に毎月検討会を開催している。身体拘束廃止マニュアルに沿って身体拘束ゼロに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会へ出席し、定期的に勉強会を行い、身体拘束廃止委員を中心に毎月検討会を開催している。身体拘束廃止マニュアルに沿って身体拘束ゼロに取り組んでいる。	入居契約時に指針の説明を行っている。毎月、ビレッジ内では身体拘束廃止委員会があり、年1回は職員の集合教育も行われている。夜間のセンサーマット使用があれば、トイレ等で起きる利用者への安全対策とはいえ、使わずに済む工夫にも努めている。また玄関は施錠しておらず、センサーによるチャイムは鳴るものの職員の目配り等で安全な暮らしを支援している。もし外へ出る利用者があれば無理に引き返すことはせず、暫く一緒に歩くというのが基本である。行動を抑えることはない。仮に不適切な場面があれば、まず職員に状況を尋ねることからとしている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修会をおこない、マニュアルに沿って高齢者虐待防止に努めている。	高齢者虐待防止についての研修会をおこない、マニュアルに沿って高齢者虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施している。必要があれば家族へ情報提供を行い関係者との話し合いを行っている。	勉強会を実施している。必要があれば家族へ情報提供を行い関係者との話し合いを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や家族会にて、書面に添って説明を十分に行い、疑問点を尋ね、理解を得るようにしている。	入居時や家族会にて、書面に添って説明を十分に行い、疑問点を尋ね、理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会やサービス担当者会議などの際に、家族の意見や不満などをゆっくり聴ける機会をもうけている。玄関に意見箱を設置している。利用者、家族の意見をサービス改善会議にて改善検討を行っている。	家族会やサービス担当者会議などの際に、家族の意見や不満などをゆっくり聴ける機会をもうけている。玄関に意見箱を設置している。利用者、家族の意見をサービス改善会議にて改善検討を行っている。	入居契約時には面会のお願いもしているが、家族によって片寄りはある。また訪れる家族の高齢化もあり、健康面や心配事等への配慮にも努めている。希望する家族には、毎月の利用料送付時に近況や事業所便りを同封しているが、なかなか来られない家族には電話も掛けている。面会時や家族会は直に想いがきける機会として大切にしており、家族とのコミュニケーションを先輩職員に学ぶ若手職員もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、相談会を開催しており意見交換している。また、個人面談の機会を設け意見を聴いている。	毎月、相談会を開催しており意見交換している。また、個人面談の機会を設け意見を聴いている。	職員会議には2通りある。事業所全体の時には各委員会の報告や勉強会が行われ、ユニット毎に開くのは利用者のカンファレンスが主である。それぞれ1～2時間を要し、休みの職員も出席している。会議内容の事前周知で自分の考えをまとめておく事ができ、取り上げてほしい事があれば管理者を通じて提案することもできる。また管理者としては働きやすい職場であるよう配慮も必要で、職員とのコミュニケーションを大切にしている。現場の声は法人の運営会議において届ける仕組みもある。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半期毎に個人目標を設定し努力を評価し、就業内容などを総合的に評価している。	半期毎に個人目標を設定し努力を評価し、就業内容などを総合的に評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数により法人内コース研修を実施したり、全職員対象の研修会を行ったり、法人外研修への参加を促し内容によっては研修費の補助を行い学習への参加を促している。	経験年数により法人内コース研修を実施したり、全職員対象の研修会を行ったり、法人外研修への参加を促し内容によっては研修費の補助を行い学習への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム交流会に参加し、情報交換をおこなっている。他事業所のイベントに参加している。	地域のグループホーム交流会に参加し、情報交換をおこなっている。他事業所のイベントに参加している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より事前に訪問し、入居時に本人の意向の確認を行い、入居後も情報を元に深く関わり、入居者の事をより理解できるよう努めている。	入居前より事前に訪問し、入居時に本人の意向の確認を行い、入居後も情報を元に深く関わり、入居者の事をより理解できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始時に面談を行い、家族の苦労や不安を十分に聞く機会をもち、受け止める努力をしている。	利用開始時に面談を行い、家族の苦労や不安を十分に聞く機会をもち、受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話す機会を十分に設け、求めに応じ安心して暮らせる事を伝え、受け止める努力をしている。	話す機会を十分に設け、求めに応じ安心して暮らせる事を伝え、受け止める努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、調理、趣味活動など生活を共に過ごし、できるだけ寄り添えるように努力している。	掃除、洗濯、調理、趣味活動など生活を共に過ごし、できるだけ寄り添えるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月々の行事予定をご案内したり日々の様子をお伝えしたり、誕生日を一緒にお祝いしたり家族と本人と一緒にゆっくりと過ごせる場を提供できるよう努め、家族とともに支援していけるようにしている。	月々の行事予定をご案内したり日々の様子をお伝えしたり、誕生日を一緒にお祝いしたり家族と本人と一緒にゆっくりと過ごせる場を提供できるよう努め、家族とともに支援していけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の家族にも日々の活動の様子を写真つきで送付したり、面会に来ていただいたり、積極的に訪問したり関係性が途切れないよう支援している。敷地内の他事業所を利用されている友人や顔なじみの介護者に会いに行ったり、希望時に自宅へ帰れるように支援している。	遠方の家族にも日々の活動の様子を写真つきで送付したり、面会に来ていただいたり、積極的に訪問したり関係性が途切れないよう支援している。敷地内の他事業所を利用されている友人や顔なじみの介護者に会いに行ったり、希望時に自宅へ帰れるように支援している。	入居までの人間関係は本人や家族、担当のケアマネジャー、また利用していた事業所や病院関係者からも話を聞き情報を集めている。具体的な支援としては電話の取次ぎやプレゼントが届けばお礼を伝えてもらうこと、また盆正月に一時帰宅(宿泊も)したり、家族の協力を得て墓参りや法事への出席もある。理美容院は出張業者の利用もあるが、馴染みの店へ職員と通う人もいる。歳を重ねる毎に体力の低下は否めず買物も少なくなったが、機会をみつけて地域の店に出掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士同じテーブルにしたり、作業や活動をテーブルを囲んで出来るよう支援し、孤立する方がいないよう支援している。	気の合う方同士同じテーブルにしたり、作業や活動をテーブルを囲んで出来るよう支援し、孤立する方がいないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同じ敷地内の老健への入所の場合は面会に行き、積極的に訪問したりしている。必要があれば電話をしたり面会したりしている。	同じ敷地内の老健への入所の場合は面会に行き、積極的に訪問したりしている。必要があれば電話をしたり面会したりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中での会話や行動、以前の生活歴より本人の思いを把握して、支援できるよう努力している。	日々の生活の中での会話や行動、以前の生活歴より本人の思いを把握して、支援できるよう努力している。	利用者の隣りで話し相手をしている時や、毎日行う体操と日付の確認をする中でも思いが聞けることがある。また発語の少ない利用者とは日頃の関わりで傾聴を心掛けている。聞き取ったことはケース記録に記したり、口頭でも伝え合い共有を図っている。そこからケアプランに反映させた例もある。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴やこれまでの介護の経過を聞き取り、入居後も日々の会話の中から補足を行いその時の様子をより詳しく知るよう努めている。	入居時に生活歴やこれまでの介護の経過を聞き取り、入居後も日々の会話の中から補足を行いその時の様子をより詳しく知るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当者がアセスメントを行い、カンファレンスを行い、本人の状況を相談会で把握し、ケアの統一が出来るよう努めている。	担当者がアセスメントを行い、カンファレンスを行い、本人の状況を相談会で把握し、ケアの統一が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員によるアセスメントし、主治医の訪問診療時に意見を求めた物、面会時に家族への希望を尋ね、それを元にカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。	担当職員によるアセスメントし、主治医の訪問診療時に意見を求めた物、面会時に家族への希望を尋ね、それを元にカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。	計画の設定期間は入居間もない頃は毎月、その後3か月毎、6か月毎と利用者に応じた対応を行っている。その間に変化があれば臨機応変に見直している。本人の希望は日頃の関わりの中で把握し、家族の要望等は来所時や電話での会話の中から汲み取っている。家族からは具体的な内容というより、このまま穏かに過ごしてほしいという意見が多い。バイタル等を記入する表にはケアプランのチェック欄もあり、日々の確認をし、担当職員による毎月の評価も行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアプランの評価気付きの記録を個別に行い、それを元に担当職員が毎月評価を行い介護計画への見直しに活かしている。	日々のケアプランの評価気付きの記録を個別に行い、それを元に担当職員が毎月評価を行い介護計画への見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	他事業所へのレクリエーション参加、出張散髪の利用、自宅への外出などをおこなっている。	他事業所へのレクリエーション参加、出張散髪の利用、自宅への外出などをおこなっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、地域の商店に買い物に行ったり、楽しみが出来るようにしている。	地域の行事に参加したり、地域の商店に買い物に行ったり、楽しみが出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	入居前からの専門医への受診の継 続や必要時は本人、家族のきぼう に添って適切な医療が受けられるよ う配慮している。	入居前からの専門医への受診の継 続や必要時は本人、家族のきぼう に添って適切な医療が受けられるよ う配慮している。	もともと母体病院(協力医)の患者 が殆どである。馴染みの病院である ため病歴も知ってもらえているとい う安心感がある。また入居後に往診な ど医療体制の説明を受け、協力医 への変更を希望する利用者もある。 母体病院がかかりつけであっても往 診ではなく入居前からの主治医の 元へ通う利用者もいる。それぞれの 希望する病院や医師による医療が 受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪 問看護師等に伝えて相談し、個々の利用 者が適切な受診や看護を受けられるよ うに支援している	看護職員を常勤配置している。日常 の身体的変化を相談し、看護師は 主治医へと報告、相談している。	看護職員を常勤配置している。日常 の身体的変化を相談し、看護師は 主治医へと報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行ってい る。	医療機関との情報交換を行い、家 族とも相談しながら適切な期間で退 院できるように努めている。	医療機関との情報交換を行い、家 族とも相談しながら適切な期間で退 院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所のできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族、主治医と相談ながら 方針を決め、共有し支援に取り組ん でいる。	本人や家族、主治医と相談ながら 方針を決め、共有し支援に取り組ん でいる。	入居契約時に「ゆうあいターミナル ケアの指針」に基づき内容や手順の 説明を行っている。これまでに看取 りの経験があり、今後も希望があれ ばその用意もある。容態の変化に 伴い家族の気持ちも揺れ動く事を踏 まえ、その都度、何度でも話し合 いを重ねる事としている。本人や家族 が安心して納得した最期を迎えられ るよう支援している。また夜間の急 変時には慌てることなく職員のこれ までの経験が活かされ、看護師資 格を持つ管理者宅も近く、すぐに駆 けつける手筈になっている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の対応やBLSの勉強会は参加しているが、全体を通じた訓練は行っていない。今後勉強会の計画、実施が必要。BLSの資格取得を奨励して、受講している。	定期的な訓練が出来ていないため、今後勉強会の計画、実施が必要。BLSの資格取得を奨励して、受講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は地元消防団・消防署の協力により、定期的に行っている、水害については今年度実施できた。地震訓練は行っていない。	火災訓練は地元消防団・消防署の協力により、定期的に行っている、水害については今年度実施できた。地震訓練は行っていない。	グループホームを火元と想定した訓練を年2回行っており、この時には利用者も一緒に避難を体験している。避難先はビレッジ内の他事業所で、スプリンクラーが作動し衣服が濡れた場合でも対応が早い。またグループホームだけではなく他事業所を想定した訓練もあり、その際、職員は逆の立場で各々の役割を持ちながら参加し応援体制は整えられている。更に自然災害による浸水等に備えた訓練もあり、毎月の防災委員会を通し各職場の意識も高い。年に一度の大規模訓練では消防署や地元消防団の参加協力を得て暗さも感じる時間帯に実施されている。職員は消火器の使い方を承知しており、火災警報器が作動すれば通報装置と連動するシステムも構築されている。非常食や水、寒さを凌げる物はビレッジ全体として備蓄があり、反省点や課題には速やかな改善と職員への周知が図られている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの性格や状況に合わせて言葉掛けや対応を行っている。	1人ひとりの性格や状況に合わせて言葉掛けや対応を行っている。	トイレや入浴の介助は羞恥心などに最も配慮を要する場面である。職員は、見え難い立ち位置でのケアなど基本的なことをきちんと行っている。また接遇に関しては法人内での自己チェックもある。個人情報の取扱いに対する意識は概ね浸透はしているものの、職員同士のやり取りの中には業務に関する事も多く、声の大きさなど今後も説いていく事としている。また入居契約時に「個人情報保護に関する希望」を示し家族の意向を確かめている。事業所便り等への写真掲載や居室の名札、一緒に写り込むかもしれない家族にも承諾を得ている。	
----	------	---	--------------------------------	--------------------------------	---	--

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度本人の思いや希望を尋ねたり、話しかけたりし本人の意思を表現できるようにしている。	その都度本人の思いや希望を尋ねたり、話しかけたりし本人の意思を表現できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々様子や希望に沿ってその日その日に合わせた支援が出来るよう努めている。	その時々様子や希望に沿ってその日その日に合わせた支援が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人用の化粧品を準備したり、髪染めをしたり、出かけしたり気に入った服が着れる様に支援している。	本人用の化粧品を準備したり、髪染めをしたり、おしゃれしてお出かけしたり、その人らしい生活ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日行っていないが、希望時に作りたい物を、それぞれの能力に応じた準備や片付けを行ってもらっている。	毎日行っていないが、希望時に作りたい物を、それぞれの能力に応じた準備や片付けを行ってもらっている。	献立はビレッジの管理栄養士が作っている。たまに希望献立の日があり、行事の際にお好み焼きなどを提供したこともある。また茶碗や汁碗、湯のみ、箸はそれぞれが用意したもので、自分の器で食事をしている。利用者の好き嫌いやアレルギー有無の把握もしており、苦手な食材の時には代替えもある。全介助の利用者も複数おり、職員の食事は後回しでケアにあたっている。形状やスプーン、器などを工夫しながらできるだけ自分で口へ運んでもらえるよう努めているが、食が細い人には高カロリー食の常備もある。晩酌などアルコールの希望があれば提供もできる。誕生日には家族も来てほしいとの思いから都合の合う日を優先し、ケーキなどが用意され皆で祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて食事量にこだわらず、補助食や嗜好品をあわせて提供することにより、必要なカロリーや水分量が摂取できるよう支援している。	一人ひとりの状態に合わせて食事量にこだわらず、補助食や嗜好品をあわせて提供することにより、必要なカロリーや水分量が摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人ひとりの能力や口腔内の状態にあわせて言葉掛けや介助方法を変え、適切に清潔保持が行えるよう援助している。	1人ひとりの能力や口腔内の状態にあわせて言葉掛けや介助方法を変え、適切に清潔保持が行えるよう援助している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄のサインや身体の状態に合わせて誘導を行ったり、一人ひとりに合わせた排泄時間を検討し、出来るだけトイレやポータブルトイレにて排泄できる様にしたりその方に合わせたオムツの使用ができるよう支援している。	排泄のサインや身体の状態に合わせて誘導を行ったり、一人ひとりに合わせた排泄時間を検討し、出来るだけトイレやポータブルトイレにて排泄できる様にしたりその方に合わせたオムツの使用ができるよう支援している。	排泄に関して自立している利用者も若干名いるがさりげなく見守り、任せたままにはしていない。事業所では、日中はできるだけトイレでの排泄を主とし、チェック表による把握も行っている。予測による誘導が出来ることでパット類の使用枚数が減ったり、紙パンツ類から改善した例もある。これは利用者にとって費用負担の軽減にもつながっている。便座回りには手摺りはもとより、可動式ひじ掛けの設置もあり、自立を助ける補助具となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を毎日チェックし、一人ひとりについて対応方法が決まっている。便秘傾向の方には水分摂取や運動を促している。	排便状況を毎日チェックし、一人ひとりについて対応方法が決まっている。便秘傾向の方には水分摂取や運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	朝から入浴時間の希望を尋ねたり、気持ちが進んだ時に声掛けを行っている。希望があれば対応したり体調に合わせて入浴する日を調整したりしている。	朝から入浴時間の希望を尋ねたり、気持ちが進んだ時に声掛けを行っている。希望があれば対応したり体調に合わせて入浴する日を調整したりしている。	入浴は概ね一日置きとしているが、風呂の準備は毎日できている。時間帯も午前か午後の希望に沿っている。入浴後には満足してもらえるものの初めは拒む人もおり、タイミングをみて誘導している。羞恥心への配慮からまず同性が関わり、力が必要な部分でさりげなく交代するなど工夫もみられる。入浴しない日でも清拭等で対応し、衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ見守っている。両側から介助ができるよう浴槽を中央に設えたユニットや、冬場のヒートショック対策への配慮も窺える。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に合わせて眠りたい時に安心できる場所で休息できるように支援している。	一人ひとりの状況に合わせて眠りたい時に安心できる場所で休息できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬ノートを活用したり、服薬管理表や熱型表、情報用紙などに記載し、一人ひとりの薬の内容を理解し、症状の変化が観察できるようにしている。	お薬ノートを活用したり、服薬管理表や熱型表、情報用紙などに記載し、一人ひとりの薬の内容を理解し、症状の変化が観察できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	運動をしたり手作業をしたり歌を唄ったり、1人ひとりの好みに合わせて楽しみが持てる様支援している。	運動をしたり手作業をしたり歌を唄ったり、1人ひとりの好みに合わせて楽しみが持てる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内を自由に散歩できたり、希望があれば家族と協力し自宅へ外出したり出来るようにしている。	敷地内を自由に散歩できたり、希望があれば家族と協力し自宅へ外出したり出来るようにしている。	本人から外出の希望が聞かれることは殆どないが、話題を振れば興味を示してくれる。年間行事には季節毎の花見や紅葉見物、初詣などが計画されており、法人の車両もあることからドライブも可能となっている。予定が届き参加する家族もある。天候や体調をみながらビレッジ内の散歩は日常的に行われ、車椅子利用であっても広い敷地内で安全に日差しを浴びることが出来る。全く外へ出ないという利用者はいない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方がスタッフ管理している。一緒に買い物に行った際には、財布を渡し、支払ってもらう事がある。	ほとんどの方がスタッフ管理している。外出先では財布を渡し、支払ってもらう事がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話したり、手紙や贈り物が届くとお礼の電話をかけたり友人や家族への手紙を出せるよう支援している。	希望があれば電話したり、手紙や贈り物が届くとお礼の電話をかけたり友人や家族への手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や貼り絵を飾ったり写真で飾ったり、テレビの音やカーテンでの光の調整を行い心地よく過ごせるようにしている。	季節の花や貼り絵を飾ったり写真で飾ったり、テレビの音やカーテンでの光の調整を行い心地よく過ごせるようにしている。	デザインは違うが、2ユニットにはいくつかの共通点がある。リビングは広く、テーブルやソファも使いやすく配置されている。庭先にはベンチやテーブルが置かれ、季節によってはそこで食事やおやつを食べることもある。廊下に歩行を妨げる物はなく、手摺り伝いに運動をする利用者もある。国道近くではあるが騒音は殆どない。換気を心掛け、手を触れる箇所の消毒もこまめに行っている等々である。また1丁目ユニットのリビングでは一面がガラス張りである開放感がある。日差しにはロールカーテンで対応している。2ユニット共に浴室やトイレはきれいに掃除され、不快な臭いもない。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーに座ったり、気の合う方のテーブルへ自由に移動したり、促したりして落ち着いて過ごせるよう支援している。	ソファーに座ったり、気の合う方のテーブルへ自由に移動したり、促したりして落ち着いて過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際や面会時に家族と相談し、なじみの家具を配置し、写真や手紙、その方の作品などを飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。	入居の際や面会時に家族と相談し、なじみの家具を配置し、写真や手紙、その方の作品などを飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。	火気など危険物以外に持ち込む品物の制限はしていない。ベッドと整理ダンス等が備えてあり、思い思いに色紙等が飾られ、居心地良く過ごせるよう配慮されている。朝起きたら窓を開け換気をし、掃除は職員が行っている。歳を重ねる毎に利用者が手伝うことは難しくなっているのが現状である。1丁目ユニットにはクローゼットがあり、収納場所があることで整理しやすくなっている。また2丁目ユニットの居室引き戸は古民家風の障子仕立てで懐かしさが感じられる。家族が希望すれば居室への宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室など分かりやすく表示したり、日時や時計を見やすい所に設置することで理解し行動しやすいように支援している。	トイレや浴室など分かりやすく表示したり、日時や時計を見やすい所に設置することで理解し行動しやすいように支援している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
↓ 該当するものに○印をつけてください				
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない